

## 令和6年度 アオコ情報（新川8・備前川3）

9月26日に実施した調査の結果についてお知らせします。

- フィコシアニン濃度<sup>※1</sup>は、新川で最大アオコレベル3相当（新港橋）、備前川で最大アオコレベル2相当<sup>※2</sup>（新開橋、岩田橋及び竹中橋）でした。
- アオコが発生している地点では、植物プランクトンであるミクロキスティスが見られました。

### 1 新川及び備前川のアオコレベル（カッコ内はフィコシアニン濃度）

<新川>

- ・ 真鍋橋:アオコレベル0相当(< 5 µg/L)
- ・ 城北橋:アオコレベル0相当(22 µg/L)
- ・ 神天橋:アオコレベル0相当(11 µg/L)
- ・ 新港橋:アオコレベル3相当(2104 µg/L)

<備前川>

- ・ 備前川橋:アオコレベル0相当(10 µg/L)
- ・ 新開橋:アオコレベル2相当(247 µg/L)
- ・ 岩田橋:アオコレベル2相当(160 µg/L)
- ・ 竹中橋:アオコレベル2相当(552 µg/L)

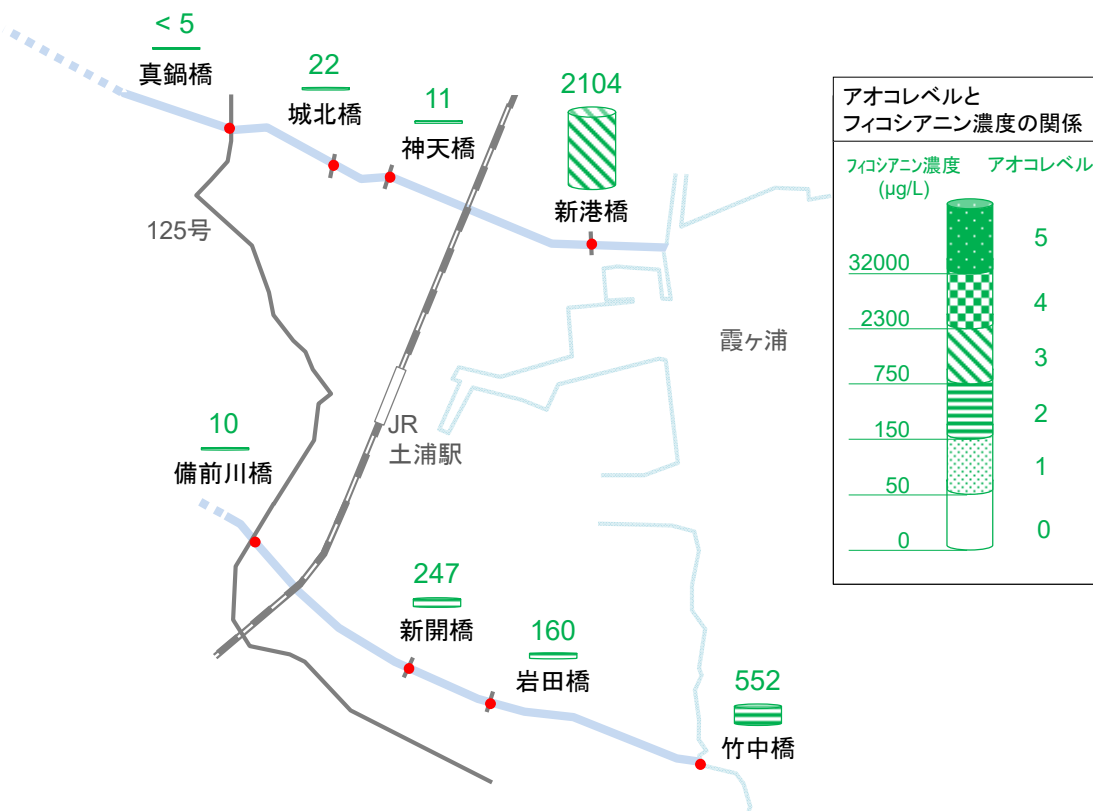


図1 フィコシアニン濃度の分布

※1 フィコシアニン

アオコの原因となる植物プランクトン（藍藻類）に含まれている色素です。フィコシアニン濃度はアオコの現存量と一定の相関があるため、アオコ現存量の目安になると考えられています。

※2 アオコレベル

アオコの発生状況を視覚的に把握するための指標です（参考：国土交通省霞ヶ浦河川事務所 HP: <http://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi00313.html>）。フィコシアニン濃度は、アオコレベル1で50 µg/L程度、アオコレベル2で150 µg/L程度、アオコレベル3で750 µg/L程度、アオコレベル4で2300 µg/L程度、アオコレベル5で32000 µg/L程度です（小日向ら、2012）。各レベルの写真は、別紙に掲載しています。

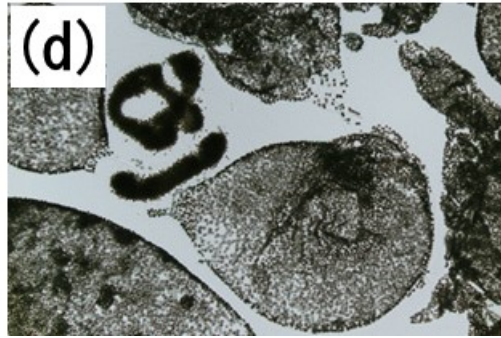
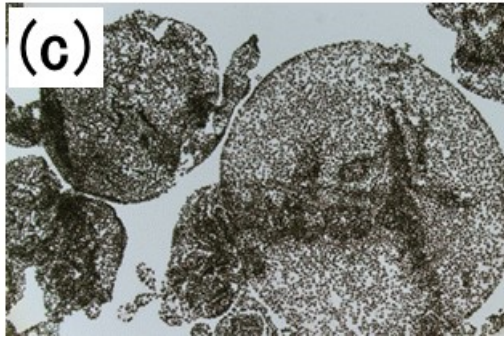
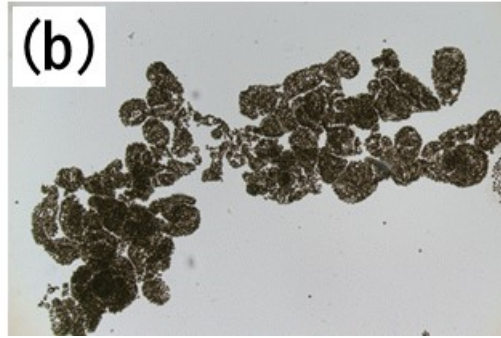
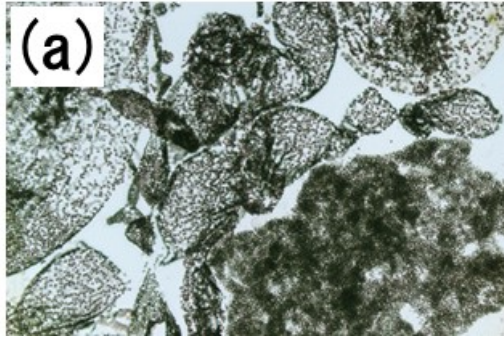
## 2 アオコを形成している植物プランクトン

<新川>

- 新港橋(アオコあり):マイクロキスティスが見られ(a)、群体を形成していた。

<備前川>

- 新開橋(アオコあり):マイクロキスティスが見られ(b)、群体を形成していた。
- 岩田橋(アオコあり):マイクロキスティスが見られ(c)、群体を形成していた。
- 竹中橋(アオコあり):マイクロキスティスが見られ(d)、群体を形成していた。



※(a)～(d)ともに、点のように見える一粒一粒がマイクロキスティスの細胞

● 調査結果の詳細

表 調査結果

	新 川				備前川			
	真鍋橋	城北橋	神天橋	新港橋	備前川橋	新開橋	岩田橋	竹中橋
採水時刻	9月26日	9月26日	9月26日	9月26日	9月26日	9月26日	9月26日	9月26日
	10:57	11:10	11:20	11:40	12:07	12:20	12:27	12:37
水温(°C)	23.5	23.6	24.3	29.4	27.0	29.9	28.9	28.0
pH	7.2	7.6	7.7	7.6	8.4	9.4	9.3	9.1
EC	27	27	26	50	30	28	27	29
透視度(cm)	41	42	42	7	32	10	12	9
フィコシアニン(μg/L)	<5	22	11	2104	10	247	160	552
クロロフィルa(μg/L)	8	15	12	1260	85	409	210	548
TN(mg/L)	1.9	2.1	2.1	22	1.0	3.6	2.4	4.5
TP(mg/L)	0.10	0.11	0.10	1.8	0.12	0.42	0.30	0.43

【アオコレベル】

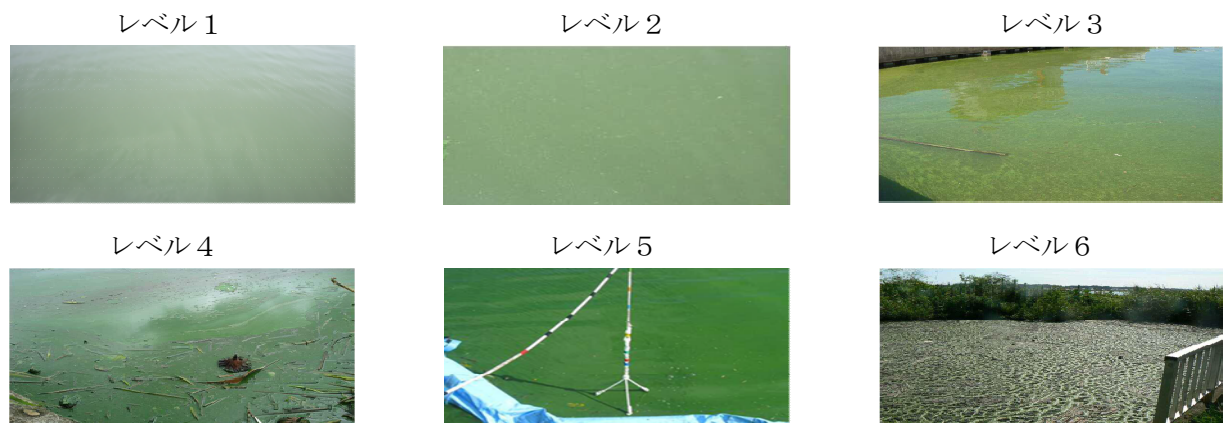


図2 アオコレベル